

## 第8回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成27年12月24日(木) 10:00~12:00

場所 富士見市役所 第3会議室

出席者 ○市民懇談会参加者

岩本	川上	新井	前田	世羅	狐塚
○	○	○	○	○	欠
山崎	氣賀澤	佐藤	岡田	守山	矢島
○	○	○	○	○	○

○アドバイザー

森本 扶 先生(埼玉大学講師)

○事務局

【地域文化振興課】市川課長、中嶋副課長

【生涯学習課】木村課長、坂本主査

- 1 開 会
- 2 議 事 岩本座長

### (1) 資料確認

事務局より、資料の確認を行った

### (2) 協議事項

- ・生涯学習推進基本計画の今後の5年間の取り組みについて  
基本目標1、2について懇談会形式で委員よりご意見をいただいた。

座長) 基本目標3は行政に関する事なので基本目標1、2について懇談をしたい。今回は基本目標1を中心に行う。

森本先生) これまでも、①市民がどれだけ能動的に参加し、参加できる環境をつくっているか②地域課題解決に結びついているか ③実践を伴っているか ④協働的な学習に発展しているか この4点が市の生涯学習をより発展させるために重要であることをお話ししてきた。

今日は第2次生涯学習推進基本計画のP73~P75について皆さんと話し合いたい。

基本目標1を振り返る。

73Pの(1)子育てを支える機関の有り方を再検討すべき。子ども達が主体的に成長できる環境作り、NPO等の事業の推進、子どもが自ら主体として関われる場が必要。社会参加事業がもっとあれば良いと考える。

- (2) 地域と連携を図りながら、地域住民を支援する学校を検討する。例えば給食を皆で共に食べる場など、中学校でも学校応援団をつくって地域との関わりを持つこと。
- (3) 地域に開かれた福祉が求められている。高齢者にとっては地域福祉が重要。孤立した高齢者へのアプローチ等が必要。
- (4) 様々な世代、新旧の世帯がつながっていくため、親子が集う地域のサロンが必要。市はもっと交流事業をPRしていく必要がある。
- (5) 市民それぞれが自主的に事業を組み立てていくことが重要

### 【子どもと若者について】

- 委員) 市民がいつでも相談できる窓口が行政にあると良い。市民自らが主体的に活動し、行政がそれを後押しする事が大切。先日、テレビ番組でキラリ☆ふじみで自主的に活動する子育てサークルが放映された。
- 委員) 難波田城資料館で大学の実習生が来ていたが、子どもの遊びを知らない。市民学芸員が提案しないとできない。私たちは小さい頃、自分たちで遊びをつくった。
- 委員) 遊びを通して子どもと老人が触れ合うことにより、発想力を鍛える場となる。遊びの学校は、「今ここにある物を遊びに使えないか？」という発想から学ぶ場となっている。こういう機会を増やしていく事で、保護者にも広がっていく。
- 委員) 昔と今の子どもとの違いで考えると、今は枠組みにはめ込まれすぎている気がする。もっと自由な発想の中で遊ばせてあげたい。
- 委員) 昔は遊び方を近所のお兄ちゃんやお姉ちゃんが教えてくれたし、親も悪いことをすれば他人の子でも注意したが、今はできない。そういった現状を変えていく必要もある。
- 委員) 水子貝塚資料館でまがたま作りをやっていると最後に必ずこれで良いか？と聞いてくる。大人がOKを出せば良いと思っている。
- 委員) 評価から外れてしまうとダメだと思っている。そのような考え方をあらめていく必要がある。
- 森本先生) 学校という場は評価が重要で、それをあらためていくのは難しい。子ども達の自由な発想に対して、親たちが見守る環境が必要。子どもの頃に田舎に引っ越したが、子どもだけの行事がたくさんあり、その時間が心地よかった。児童館は学校や評価の場から少し離れている。指導員が自分で遊びを作るのを見て子どもが触発され、それが次の世代に伝わる。「焦らない」「長い目で見ろ」「安全安心を過度に求めない」「結果を急がない」など、自由な発想の場をつくることで、子どもた

ちや親の考え方が変わってくる。

座長) 子ども達が自由に集まれるスペースが少ない。

委員) 休日のグラウンドはスポーツ少年団等に開放しているので子どもたちが自由に使うことは難しい。学校応援団等と相談しながら活用できると良い。

委員) 育成会活動に地域のシニア等に声掛けして集まってもらう事は可能ではないか。

森本先生) 東北の被災地ではジュニアリーダーが充実している。中高生が子ども達を連れてキャンプをやっている。

委員) 坂戸ではジュニアリーダーを育成している。そういった活動が地域の中にある事によって、子どもが成長できる。育成会、町内会は若いお父さんお母さんが参加してくれないという課題もある。

委員) 今の子どもは習い事を優先するため、地域のイベントに出て来ない場合も多い。親世代も同様の環境で育った方が多い。

委員) これは社会全体的な問題であり地域の力だけでは子どもたちの環境を変えることは難しいのでは。

森本先生) 子ども同士、大人同士のコミュニケーションをする場が必要。

委員) 子ども達を見守る視点が大切。子育ての苦労を行政や地域で支えてあげられると良い。5年後、10年後を見据えて、富士見市の人口が増えてそれを受け入れる環境が大切だと思う。市では活躍した人をウェブサイト等で広報しているが、インターネットを見られる場を常設的に作っていく事が必要。

委員) 大学の図書館の利用促進を検討する中で、オープンスペースにした。学生が集まり、課題をやったり、研修旅行の打合せをしたり、図書館の資料を利用している。

座長) スペースがあるとコミュニケーションが生まれる。

森本先生) 色々な人が集まるとコミュニケーションが生まれる。集まる場所には色々な情報があることが理想。例えば市民団体の映像が流れていたりすることも効果的である。

委員) 少数の大人と、子ども達が自主的に集まれる学習室のような場所があると良いと思う。地域の子子ども達に何かしたいという人はいる。

委員) 町会で映画会を行ったが、子どもたちの参加は少なかった。今後は周知方法を工夫し、来年も実施したい。地域の若者や子どもたちの地域活動につながれば良いと考えている。

### 【高齢者について】

委員) 富士見市には高齢者向けの体操はあるか？

事務局) パワーアップ体操というのがある。南畑公民館では50名程が参加している。

委員) 水谷東公民館でも行われている。水谷東地域は地域がまとまっている。過去に水害があって一致団結して助け合った経緯がある。

森本先生) 地域を感じられる活動が年に1、2回あると良い。お祭りや神輿など地域意識を感じられる仕掛けが必要。

委員) 水谷東でも町会ごとに祭をやっている。いかだラリーも楽しくやっている。しかし住んでいるのは高齢者が多く、若い人が少なくなった。

委員) 鶴瀬駅の駅前によさこいが始まった。坂戸では市民だけではなく行政とタイアップしている。ひとつの商店会だけではなく行政も協力して盛り上げたらどうか。

委員) 「ふるさと祭り」の花火を南畑でやったらどうかという話もあったが、ビニールハウス等への飛火の心配もあって出来なかった。

委員) 坂戸市でも「よさこい祭り」を行っている。坂戸駅と北坂戸駅のメイン通りを使う。警察、団体、行政が連携し、2年位かけて調整した。

森本先生) 三鷹市でも子ども神輿があるので、誰が何をやるかを話し合う機会がある。中高生が中心になって3日間だけだが子どもたちの話し合いの場が出来る。

委員) 高齢者の市民の問題だが、女性は地域で付き合いが出来るが、男性は機会が少ないと思われる。その人材を取り込むために、情報が手に届く場に置いておくことが大事。仕事をしていた時の肩書を忘れ、交流すれば新しい価値観が芽生える。パソコン教室を始めたが、すごい人がたくさんいる事に気が付いた。男性だけの飲み会等を行ってみたが、いろんな人と会話をするきっかけになった。

座長) 定年する前からの取り組みが大事

委員) 子どもと一緒に取り組む事が良いと思う。

事務局) 色々な議論をいただいた。年度末に取りまとめる。皆さんから意見を貰うのは今月が最後、取りまとめたものを庁内検討委員会で最終的に検討する。まとめて岩本座長と森本先生に見てもらい皆さんに渡す。今回は10年の基本計画の中間見直しという事で、内容、柱は基本的には変えない。パブリックコメントとはしない。

森本先生) 具体的な富士見市の取り組みから計画を精査してもらった。皆さんの意見を聞いて勉強させていただいた。

事務局) 年内は終了、また良いお年を。